患者向医薬品ガイド
2025年2月更新

ラベプラゾールNa錠5mg「AFP」
ラベプラゾールNa錠10mg「AFP」

【この薬は？】

販売名	ラベプラゾールNa錠5mg「AFP」 RABEPRAZOLE Na Tablets 5mg「AFP」	ラベプラゾールNa錠10mg「AFP」 RABEPRAZOLE Na Tablets 10mg「AFP」
一般名	ラベプラゾールナトリウム Rabeprazole Sodium	
含有量 (1錠中)	5mg	10mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、プロトンポンプ阻害剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は胃の中で、酸分泌を抑えます。
・次の目的で処方されます。

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎、Zollinger-Ellison症候群、非びらん性胃食道逆流症、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制

下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎

・この薬は、体調がよくなったと判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに使用し続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。
・過去にラベプラゾールNa錠「AFP」に含まれる成分に対して過敏な反応を経験したことがある人
・アタザナビル硫酸塩、リルピビリン塩酸塩を使用している人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・過去に薬剤で過敏症のあった人
・肝臓に障害のある人

○この薬には併用してはいけない薬［アタザナビル硫酸塩（レイアタッツ）、リルピビリン塩酸塩（エジュラント）］や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量と回数は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、飲む量、回数および期間は次のとおりです。

〔胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison症候群〕

1回量	10mgまたは20mg	
飲む回数	1日1回	
飲む期間	胃潰瘍、吻合部潰瘍	8週間まで
	十二指腸潰瘍	6週間まで

〔逆流性食道炎の治療〕

通常	1回量	10mgまたは20mg
	飲む回数	1日1回
	飲む期間	8週間まで
プロトンポンプ阻害剤による治療で効果不十分な場合	1回量	10mgまたは20mg＊
	飲む回数	1日2回
	飲む期間	さらに8週間

＊　重度の粘膜傷害を有する場合に限り、1回20mgを1日2回飲みます。

〔逆流性食道炎の維持療法〕

再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎	1回量	10mg
	飲む回数	1日1回
プロトンポンプ阻害剤による治療で効果不十分な逆流性食道炎	1回量	10mg
	飲む回数	1日2回

〔非びらん性胃食道逆流症〕

1回量	10mg
飲む回数	1日1回
飲む期間	4週間まで

〔低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制〕

1回量	5mgまたは10mg
飲む回数	1日1回

〔ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助〕

1回量	以下の3剤を同時に飲みます。 ラベプラゾールナトリウムとして10mg アモキシシリン水和物として750mg（力価） クラリスロマイシンとして200mgまたは400mg（力価）
飲む回数	1日2回
飲む期間	7日間

〔ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助（除菌不成功の場合）〕

1回量	以下の3剤を同時に飲みます。 ラベプラゾールナトリウムとして10mg アモキシシリン水和物として750mg（力価） メトロニダゾールとして250mg
飲む回数	1日2回
飲む期間	7日間

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回分を飛ばし、次に飲む時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬の使用中に血液検査が行われることがあります。
・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
汎血球減少 はんけっきゅうげんしょう	めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきからの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、唾液・痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ

重大な副作用	主な自覚症状
皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る
低ナトリウム血症 ていナトリウムけっしょう	吐き気、頭痛、嘔吐、けいれん、意識の低下
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
視力障害 しりょくしょうがい	文字や形がみえにくい、視野の異常
錯乱状態 さくらんじょうたい	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、発熱、ふらつき、出血が止まりにくい、突然の高熱、寒気、出血しやすい、体がだるい、けいれん、脱力感、むくみ、体がかゆくなる、疲れやすい、力が入らない、急激に体重が増える、食欲不振
頭部	めまい、意識の消失、頭痛、意識の低下、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、急な意識の低下
顔面	顔面蒼白（そうはく）、鼻血
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる、文字や形がみえにくい、視野の異常
耳	耳鳴り
口や喉	咳、唇や口内のただれ、喉のかゆみ、歯ぐきからの出血、喉の痛み、吐き気、嘔吐、血を吐く、唾液・痰に血が混じる
胸部	息切れ、息苦しい、動悸
腹部	腹痛、お腹が張る
手・足	手足が冷たくなる、手足のこわばり、手足のしびれ、関節の痛み
皮膚	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、全身のかゆみ、じんま疹、あおあざができる、皮膚が黄色くなる、発疹

部位	自覚症状
筋肉	筋肉の痛み
尿	尿の色が濃くなる、尿が赤褐色になる、尿量が減る
便	下痢、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）

【この薬の形は？】

販売名	ラベプラゾール Na 錠 5mg「AFP」	ラベプラゾール Na 錠 10mg「AFP」
PTP シート		
形状	腸溶フィルムコーティング錠 	腸溶フィルムコーティング錠
直径	5.7mm	6.7mm
厚さ	2.7mm	3.9mm
重さ	67mg	132mg
色	淡黄色	淡黄色
識別コード	ラベプラゾール 5 AFP	ラベプラゾール 10 AFP

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ラベプラゾールナトリウム
添加物	D-マンニトール、酸化マグネシウム、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、カルメロースカルシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、エチルセルロース、ヒプロメロースフタル酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、酸化チタン、黄色三二酸化鉄、カルナウバロウ

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：アルフレッサ ファーマ株式会社
(https://www.alfresa-pharma.co.jp/)
製品情報部　くすり相談室
電話：0120-060334
受付時間：9時～17時
（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）